



2019年 7月 30日

NO. 10

5年担任

# 算数日記のスタートの仕方

7月26日（金）に行われたブックトークで、全職員で読み合った本『学び合う教室文化』をすべての教室に」の中で紹介されていた「算数日記」の取り組みに、5年生では4月から取り組んできた。「算数日記」に取り組んでみて、よいと感じたことがたくさんある。その一つが、学びが細切れにならずに持続することである。その日に学んだことを、家でもう一度振り返ることで、1日で2度同じ内容を学ぶことになる。何度も、その日の授業における自分の思考の流れや友達の考えにふれることができることは、復習でドリル問題を解くのとは、また違った価値があるのではないか。

「算数日記」をスタートするにあたり、下のプリントを使い、クラス全体でオリエンテーションして、授業の中で実際に日記を書いてみる時間を確保した。以降、「算数日記」を不定期に宿題として家庭で書かせてきた。しかし、やってみると、初めての取り組みであるため、戸惑う子どもも見られた。

## ★★★★★「算数日記」の書き方★★★★★

### ①その日の授業で「どんなこと」をしたかを書く

・「はじめに…」「つぎに…」「さいごに…」というような言葉を使うと、内容が相手に伝わりやすくなる。


### ②みんなで考えた問題について、自分はどうか考えたのか、友達はどうか考えたのかを書く

・だれがどんな考えを言っていたか、それを聴いてどうか考えたのかを書く。

### ③わからなかったところがあったら、それについてくわしく書く

①例 「〇〇について、何度説明されてもわかりませんでした。そのため、家に帰ってからお姉ちゃんから教えてもらいました。でも、やっぱりまだすっきりしません。明日の授業で、みんなといっしょにもう一度考えてみたいです。」

### ④どうやってわかったかをくわしく書く ←これが一番大切なことです。

①例  のような形の面積は、直線で区切って2つに分けたり（足し算方式）無理やり長方形にして後から付け足した部分を引いたり（引き算方式）して、公式が使える形にすれば、面積が求められることがわかった。

## 主にどんなところで子どもがつかずくか？

①～③までは、ほとんどの子どもが書くことができる。しかし、④の「どうやってわかったか」の記述になると、途端に曖昧な記述になる子どもが増える。つまり、授業中に、いかにわかったつもりになっているかが垣間見えてくる。この部分を自分の言葉ではっきりと書けるということが、とても重要であり、付けたい力である。ジャンプの課題については、授業内で、わざわざ「まとめ」ないことも多い。そのため、ノートに書かれていることをそのまま写すこともできない。集中してきいたり、考えたりしていない子には、④は書けないのである。

力を伸ばしていくために…

今現在、行っていることは

本の中では、さらに…

- ①ノートへのコメントを通してアドバイスすること
  - ②まねしてほしいよさのある日記を紹介すること
  - ★仲間の算数ノートを授業のはじめに読み合うこと
  - ★算数日記を活用して、前の学びに戻る文化を育てること
- などが紹介されています。

日記を書くためには、授業に集中しなければならない。授業と家庭学習（算数日記）を連動させることで、実は授業にもよい効果が表れるのではないだろうか。さらに実践を深め、「算数日記」を活用していこうと思う。